

令和6年度認定こども園南中山の取り組みと評価

令和7年 3 月 12日

この度、今年度の園の取り組みを振り返り、職員が自己評価を行いました。それぞれの評価結果を踏まえて、成果や課題、改善方策などを話し合い、園評価としてまとめました。この結果をうけとめ、教育・保育活動の充実や職員の資質向上に努めていきたいと思ひます。

Ⅰ 教育・保育活動の成果と課題

① 成果

(1) 環境を通しての教育・保育

「園児一人一人が遊びこむために～明日につながる環境づくり」というテーマのもと、年齢に応じた教育・保育の在り方について、全職員で語り合ってきました。日々の保育を実践する中で、子どもの興味や関心が刺激され、「なんだろう?」「やってみたい!」と自ら環境に関わり、主体的に活動していくにはどうすればいいのか、保育の振り返りをしてきました。振り返りを通して、保育者が子ども達と一緒に遊びを楽しむ中で、子ども達の「楽しい!」「おもしろい」「不思議だな」という思いに気づき、寄り添い、そして環境を整えることができました。また、事例研修や公開保育を通して、環境構成からの子どもの姿や保育者の援助、子どもの学びについて話し合いを重ねていくことで、より子どもの主体的な姿や遊びへとつながりをもつことができているように感じました。

親子遠足や地区納涼祭での楽しい経験をしたことから、子ども達が『もう一度やってみたい』との思いで、エンゼルランドごっこや夏祭りごっこなどの遊びへとつながっていきまひました。年長クラスから始まった遊びが、小さいクラスへも広がりが見られたことから、年齢の発達に合わせた環境を用意し、遊びがつながっていくようにしました。

また、地域の伝統行事である『獅子返し』を見たことで、おしっ様づくりが始まりました。本物をイメージして作ろうと、空き箱やトレイなどの身近な素材を用い、工夫して取り組む姿や、出来上がると掛け声をかけながら舞い踊る子ども達の姿に、表現する面白さを育むことができたように感じました。

園内研修では、人権をテーマに、全職員で『子ども達の思いを丁寧に受け止めていただろうか』と、子どもとの関わりについて振り返り、教育・保育を見つめ直しました。また、看護師による嘔吐物処理の仕方、救急救命士による応急処置の方法、そして警察官による不審者対応訓練を行い、命を守るための適切な対応法を学びました。



(2) 小学生との触れ合い

隣接するこども園ならではの良さを生かし、体育大会への参加や、1,2年生との交流(おもちゃフェスティバル)、マラソン大会の応援、体験入学などを通し、交流を重ねました。また、避難訓練の際には、小学校への避難を実践したり、小学校の訓練に5歳児が参加をしたりして、災害時の連携をとることができました。



(3) 地域の人たちとの触れ合い

納涼祭の舞台発表や文化祭、ワークショップの作品展示をすることで、地域の方に見ていただき、親しみを持ってもらうことができました。

クリスマス会には、地区の駐在所の署員と見守り隊の方から交通安全の話をしていただいたり、一緒に歌や踊りをしたりなど楽しいひと時を過ごしました。



地域の環境アドバイザーを講師として招き、木育体験をしました。木に親しみ、身近な環境に目を向けるきっかけとなりました。

子育て家庭の保護者には、園開放について、のぼり旗を立てて知らせたり、ホームページの掲載や公民館、銀行に案内の掲示をしたりして情報を発信し、地域に開かれた場となるように努めました。多くの未就園児の親が来園し、開かれた空間を提供することができました。



(4) 保護者との連携

園だよりやクラスだより、子どもの学びを示したドキュメンテーションを通して、幼児期の生活や遊びの大切さを伝えてきました。特に、食育だよりでは、健康な心と体を育むために、家庭と園が子どもに対して共通の関わり方をしていくことを心がけてきました。

以上のことから、子ども達は、園の活動や遊びを通して様々なことを経験しました。友達との関わりの中で、達成感、葛藤などの体験を積み重ね、それが自信につながることで人間としてよりよく生きようとする力の基礎が育まれていきました。また、学校や地域の人、保護者の協力のもと、様々な人と関わることで、沢山のことに気づき、心が育っていくことがわかりました。

② 課題

教育・保育の全体的な計画に基づき、子どもの発達段階を踏まえ、主体的な遊びや学びに向かう力を育むための環境づくりを、子どもの興味関心を探りながら引き続き工夫していくこと。

地域（在宅）の子ども達や保護者への子育て支援を行うため情報発信をより定着していくことや、地域の身近な遊び場としてばかりでなく、相談機関として情報提供をしていくこと。

園と小学校との相互理解を深め、円滑な接続、連携を図ること。

2 来年度の園経営、教育・保育活動における改善方策

子どもの人権を踏まえ、子どもの主体性や発達に合わせて、環境を整え、保育者の援助など具体的な視点をもって職員間で話し合い、全職員の共通理解に努めていきます。

保護者が子どもへの理解を深めていけるよう、行事や保育参加、日々の活動の配信などを通して、子どもの学びを共有できるような場を設けていきます。

小学校や地域の方に、子どもの姿を共有できるよう積極的に発信したり、交流したりしていく中で、地域の一員として大切にされているという自己肯定感を育むことができるようにしていきます。

地域に根付く子育ての拠点となるように、在宅の子どもや保護者の相談機関として、親しみの持てる園となるよう努めていきます。